

函館 観光 手帳



一般社団法人
函館国際観光コンベンション協会

発行／(一社)函館国際観光コンベンション協会

〒040-0054 函館市元町33番14号

TEL(0138)27-3535 FAX(0138)27-6775

<http://hakodate-kankou.com/>

企画・制作／(株)プリントハウス

制作協力／(公社)北海道観光振興機構・函館市・函館商工会議所・みなみ北海道観光推進協議会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等の転載、コピーを禁じます。

本誌掲載の内容は、2015年3月現在のものです。



HAKODATE

目次

一般社団法人 函館国際観光コンベンション協会では、
来る2015年度末北海道新幹線「新函館北斗」開業を見据え、
全市を挙げて、おもてなしの気持ちで観光客に接することが
できるよう、本冊子を作成いたしました。
函館観光案内の際には、是非ご活用下さい。

2015年3月

一般社団法人 函館国際観光コンベンション協会

市政概要	2～9
・函館市のプロフィール	2～3
・函館の歴史(近代～現代)	4～7
・北海道新幹線開業について	8
・各市町への交通網	9
イベント・旬カレンダー	10～11
市街地マップ(避難所)	12～13
観光情報	14～25
・元町・西部地区周辺	14～19
・五稜郭周辺	20～21
・その他地域	22～25
指さし外国語	26～31
・買い物	26
・飲食	27
・宿泊	28～29
・インフォメーション	30
・交通	31
DATA	32～33

函館市のプロフィール

地名の由来

室町時代の享徳3年(1454年)、津軽の豪族河野政通が宇須岸(ウスケシ:アイヌ語で湾の意)と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ていることから「箱館」と呼ばれることになりました。この館跡は今の基礎を置いたところ。明治2年(1869年)、蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められました。

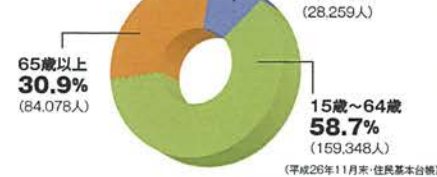
統計データ

人口..... **271,685人** (平成26年11月末・住民基本台帳)
 人口密度..... **411.7人/km²** (平成22年・国勢調査)
 世帯数..... **143,785世帯** (平成26年11月末・住民基本台帳)
 1世帯当たりの平均人数... **1.89人** (平成26年11月末・住民基本台帳)

男女比



年齢構造



年間気温



市章

天然の良港・函館港は、津軽海峡に突出した岬の角に抱かれた形をしており、海水が深く湾入して巴状になっているところから、俗に「巴の港」といわれています。これになぞらえて昭和10年7月13日、左巴を市章に制定しました。



市旗

明治初期に市の象徴として用いられていた五稜星と現在の市章を合わせた現代的に表現したもので、地色の青は空と海洋、五稜の赤は歴史と市民の意欲、巴と五稜を囲む白は未来への飛躍を表しています。昭和43年6月11日制定しました。



市の木花鳥魚



市の木
おんこ(いちい)
 昭和50年4月1日制定



市の花
つつじ(やまつつじ)
 昭和50年4月1日制定



市の鳥
ヤマガラ(シジュウカラ科)
 昭和62年5月10日制定



市の魚
イカ
 平成元年8月1日制定

姉妹都市・友好交流都市・ツインシティ

姉妹都市・友好交流都市

函館市は、海外の6つの都市と姉妹都市・友好交流都市提携を結び、訪問団の相互派遣のほか、教育・文化・スポーツ・経済など様々な分野で交流を進め、国際化の推進に努めています。



- 姉妹都市
 ハリファックス市 (カナダ) 昭和57年提携
 ウラジオストク市 (ロシア) 平成4年提携
 レイク・マコーリー市 (オーストラリア) 平成4年提携
 ユジノサハリンスク市 (ロシア) 平成9年提携
 高陽 (コヤン) 市 (韓国) 平成23年提携

- 友好交流都市
 天津市 (中国) 平成13年提携

ツインシティ (双子都市)

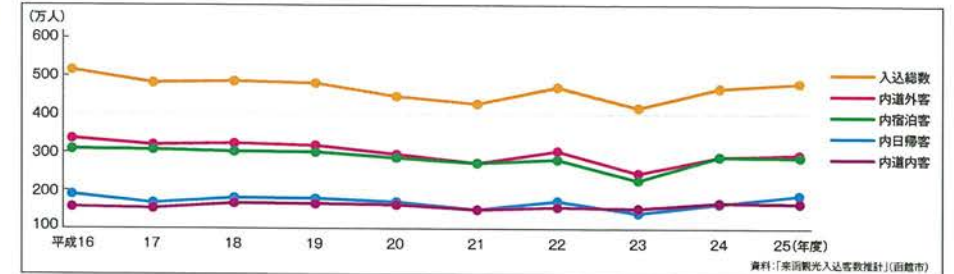
新しい青函経済文化圏の形成をめざし、永未い友好親善と将来の飛躍的發展を願って、函館市と青森市は、青函トンネル開業1周年の記念すべき平成元年3月13日にツインシティ提携の協約を締結しました。両市は「手をつなぐ、心をつなぐ」を合い言葉に、両市民の固いきずなによって教育・文化・福祉、スポーツ、観光、経済などの広い分野で、地域住民、民間団体、学術研究機関、企業など幅広い分野の人々の参加と協力を得ながら様々な交流を展開しています。



函館市の観光動向

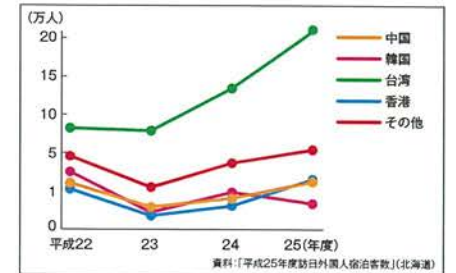
函館市における観光入込客数の推移

本市の観光入込客数は、平成16年度を境に500万人を割り込み、以降横ばいから緩やかな減少傾向。平成23年度には、東日本大震災の影響で、約410万人にまで落ち込んだが、平成24年度には、約450万、また、平成25年度には、約480万まで回復。道外客は、ここ数年300万人前後を推移し、道内客は、平成15年度の200万人近くをピークに、以降150万人前後で推移。



函館市における外国人観光客の動向

函館を訪れた外国人観光客数は、全国や北海道の動向と同様、増加傾向。台湾からの来訪が圧倒的に多く、中国や韓国など東アジアからの観光客が多くを占める。また、新千歳空港経由で訪れるタイなどの東南アジアからの観光客の伸びが顕著となっている。



観光客の特性

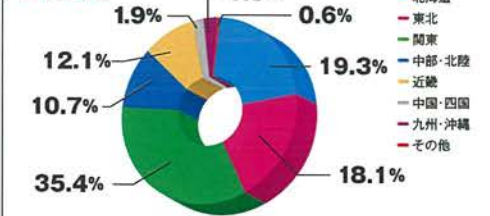
- 資料:「平成25年度観光アンケート調査」(函館市)
- 1) 調査期間 / 毎年4月~3月 (過年)
 - 2) 実施方法 / 函館市内の観光ポイント(函館山、元町周辺、ウォーターフロント、五稜郭公園等)での聞き取りおよび元町観光案内所でのアンケート用紙の設置
 - 3) 調査数 / 約1,500人

函館観光選んだ理由 函館観光の訪問先

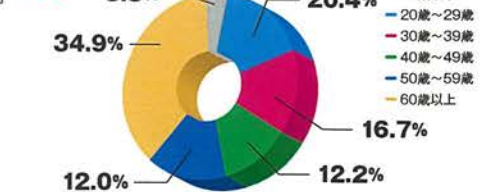
夜景	79.9%	ウォーターフロント	91.8%
歴史的建造物	66.2%	元町周辺	85.5%
グルメ	63.8%	函館山	85.2%
著名人ゆかりの地	27.0%	五稜郭	76.4%
温泉	25.4%	朝市・自由市場	66.6%
ツアー	18.9%	湯の川温泉	45.1%
自然鑑賞	13.3%	トラピスチヌ修道院	30.2%
イベント	4.8%	大門横丁	7.3%
その他	9.4%	外国人墓地	5.7%
		立待峠	5.6%
		摩周丸	4.7%
		その他	3.7%

(複数回答)

居住地域



年代



函館観光の経済波及効果

平成25年度来函観光入込客数推計の「観光客数」と本調査の「宿泊客の消費額」および「日帰り客の消費額」を乗じて得られた推計上の「観光消費額」は1,043億円であり、当市の生算波及効果の倍率1.49倍を用いる結果、「函館観光の経済波及効果」は1,554億円規模と推計される。

平均消費額

宿泊客..... **29,585円***
 日帰客..... **8,025円**
 全体平均の一人あたり消費額..... **29,478円**

*バック費用のうち、宿泊費および交通費の内訳が不明であるため、宿泊費はバック利用者以外の平均費用を使用

函館の歴史 (近代～現代)

2009年(平成21)に開港150周年、
2012年(平成24)には市制施行90周年を迎えた函館。
歴史と伝統を刻み、未来へと歩んでいます。

- 1800年(寛政12) 高田屋嘉兵衛が択捉に漁場を開く。
- 1802年(享和2) 幕府が箱館奉行(蝦夷地奉行)を設置。
- 1854年(嘉永7) 幕府がアメリカ提督ペリーと日米和親条約を締結。ペリー提督率いるアメリカ艦隊5隻が箱館港調査のため入港。
- 1859年(安政6) 幕府が箱館・横浜・長崎を自由貿易港とし、箱館開港(6月2日=陽暦7月1日)。
- 1864年(元治元) 五稜郭竣工(武田斐三郎設計)。
- 1868年(慶応4・明治元) 戊辰戦争始まる。榎本武揚ら、旧幕府の艦船8隻を率い、品川沖から脱走、10月森村鷲ノ木に上陸し五稜郭を占拠、入城。
- 1869年(明治2) 政府軍の箱館総攻撃により五稜郭開城、箱館戦争終結。蝦夷を北海道と改称、箱館を函館に改める。
- 1872年(明治5) 我が国最初の気象観測所として「函館気候測量所」(函館海洋気象台の前身)が設立される。
- 1879年(明治12) 住民参加により道内最初の公園・函館公園が開園。
- 1889年(明治22) 日本で2番目の近代水道として給水が開始される。
- 1897年(明治30) 函館馬車鉄道営業開始(明治31年湯川線開通)。
- 1904年(明治37) 函館～小樽間、鉄道開通。
- 1908年(明治41) 青函連絡船就航。
- 1913年(大正2) 6月、馬車鉄道の軌道に路面電車を走らせる。
- 1922年(大正11) 市制施行され「函館市」となり、第1回函館市議会開く。大正時代、函館は北洋漁業で発展し、昭和10年頃まで札幌・仙台をしのぐ東京以北最大の都市であった。
- 1923年(大正12) 国内最初の扶壁式鉄筋コンクリートダムである笹流ダムが完成。
- 1934年(昭和9) 函館大火が発生(3月21日)、市街地の約3分の1を焼き尽くす。死者2,166人、行方不明662人。函館ではこれ以前にも10回もの大火が起きており、以降区画整理などの整備が開始される。
- 1935年(昭和10) 7月1日を開港記念日と定め第1回港まつりを挙(開港77年)。
- 1942年(昭和17) 国鉄函館駅新築落成(平成15年解体)。
- 1946年(昭和21) 要塞が設置され、立ち入り禁止となっていた函館山が一般に開放される。
- 1951年(昭和26) 市営野球場完成(平成6年全面改築)。市電宮前町～五稜郭公園間開通。
- 1952年(昭和27) 北洋漁業が再開。五稜郭跡が特別史跡に指定。
- 1954年(昭和29) 台風15号により洞爺丸ほか4隻の青函連絡船が沈没。北洋漁業再開記念北海道大博覧会開催。
- 1957年(昭和32) NHK函館放送局完成、テレビ放映開始。
- 1958年(昭和33) 函館山ロープウェイ営業開始。
- 1960年(昭和35) 函館空港ターミナルビル完成。翌年、函館～札幌間の定期航空路営業開始。
- 1964年(昭和39) 函館～大間間にカーフェリー就航。
- 1966年(昭和41) 市立函館博物館完成。銭亀沢村、函館市と合併。
- 1970年(昭和45) 市民会館開館。市営熱帯植物園開園。
- 1974年(昭和49) 旧函館区公会堂、重要文化財に指定。
- 1975年(昭和50) 中央卸売市場開場。
- 1982年(昭和57) カナダのハリファックス市と国際姉妹都市提携。
- 1983年(昭和58) 函館ハリストス正教会復活聖堂、重要文化財に指定される。
- 1988年(昭和63) 青函トンネル・津軽海峡線開業。青函連絡船が80年の歴史に幕を閉じる。青函トンネル開通記念博覧会開催。
- 1989年(昭和64・平成元) 青森市とツインシティ(双子都市)提携。
- 1991年(平成3) 旧青函連絡船「摩周丸」がメモリアルシップとして開館。第1回函館ハーフマラソン大会開催。
- 1992年(平成4) 開港記念館開館(旧イギリス領事館)。ロシアのウラジオストク市、オーストラリアのレイク・マコーリー市と国際姉妹都市提携。
- 1993年(平成5) 復元チンチン電車「箱館ハイカラ號」運行。
- 1994年(平成6) 函館～ユジノ・サハリンスク国際定期航空路開設。
- 1997年(平成9) 「ともえ大橋」開通。世界星形城郭サミット開催。ロシアのユジノサハリンスク市と国際姉妹都市提携。
- 1999年(平成11) 千代台公園陸上競技場新装オープン。はこだてオートキャンプ場、パークゴルフ場オープン。
- 2000年(平成12) 新市立函館病院開院。公立はこだて未来大学開学。
- 2001年(平成13) 「香雪園」名勝に指定される。中国の天津市と友好交流都市提携。
- 2003年(平成15) 新函館競輪場全面オープン。青函連絡船記念館「摩周丸」オープン。JR函館新駅舎オープン。
- 2004年(平成16) ペリー来航150周年記念事業開催。戸井町・恵山町・楸法華村・南茅部町と合併。
- 2005年(平成17) 函館駅前広場完成。北海道新幹線 新青森～新函館北斗間建設着工。函館空港国内線新旅客ターミナルビル全面オープン。大門横丁(函館ひかりの屋台)オープン。中央図書館オープン。
- 2006年(平成18) 新・五稜郭タワーオープン。函館～ソウル国際定期航空路就航。
- 2007年(平成19) 地域交流まちづくりセンターオープン。「中空土偶」国宝に指定。大谷派本願寺函館別院(本堂、鐘楼、正門)が国の重要文化財に指定。
- 2008年(平成20) 函館開港150周年記念事業プレイベント「開港5都市麺フェスタ」開催。大船遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産暫定リストに登載。
- 2009年(平成21) 開港記念館(旧イギリス領事館)リニューアルオープン。函館開港150周年記念式典挙。記念メインイベント「DREAMBOX150」開催。
- 2010年(平成22) 箱館奉行所オープン。JRA函館競馬場リニューアルオープン。
- 2011年(平成23) 東日本大震災が発生。韓国高陽市と姉妹都市提携。縄文文化交流センターオープン。
- 2012年(平成24) 市制施行90周年記念式典挙。はこだてグルメサークス開催。
- 2013年(平成25) GLAY野外ライブ開催。
- 2014年(平成26) 五稜郭築造150年祭開催。開港通り命名式。
- 2015年(平成27) 函館アリーナオープン、函館フットボールパークオープン。
- 2016年(平成28) 北海道新幹線「新函館北斗」開業(予定)。

函館の歴史

北前船の交易で繁栄

函館の街の発展は、いつも海とともにありました。江戸中期から明治期にかけて、蝦夷地と関西を結んだ北前船。本州から塩や酒、木綿などを持ち込み、反対に昆布やニンシ、サケなどを積み出しました。北前船の交易で財を成した高田屋嘉兵衛は、幕府からの命を受けて択捉航路を開拓。択捉島に漁場を開拓するなど、函館の発展に寄与しました。



北洋漁業の隆盛

大正時代になると、函館は北洋漁業の基地としてめざましい成長を遂げます。水産業の繁栄は、商業や造船業の発展を促し、函館は一大漁業基地として成長。昭和初期には人口も20万人を超え、東北以北で最大の都市として栄華を極めました。海が函館のまちを大きく育てたといえるでしょう。



日本最初の国際貿易港として

1853年、アメリカ大統領の国書を携えたペリー提督が、軍艦4隻を率い浦賀沖に来航したことから、日本は開国へと大きく舵を切ります。1859年には、幕府が箱館、横浜、長崎の3港を国際貿易港として開港しました。外国人の居留も始まり、各国の領事館も開設。函館山のふもとの西部地区に残る洋風建築物には、海を越えてやってきた諸外国の文化の影響が色濃く反映されています。



青函連絡船から青函トンネルへ

高度成長期には、函館は北海道の玄関口として存在感を示しました。本州と北海道を結ぶ大動脈として活躍した青函連絡船は、1973(昭和48)年のピーク時、年間499万人もの旅客を運びました。その後、函館空港の開港やフェリー就航などで交通手段が多様化。1988(昭和63)年に青函トンネルが開業すると同時に、連絡船は廃止となりましたが、海峡を挟んで向かいあってきた函館と青森は「ツインシティ」の提携を結び、積極的な交流を続けています。



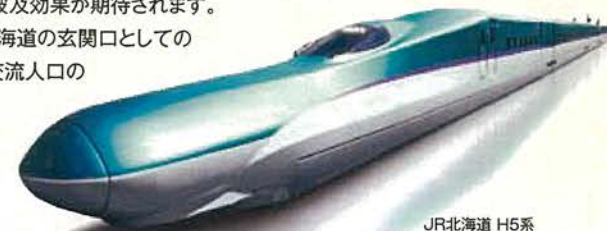
箱館戦争の舞台へ

箱館は幕末期、新政府軍と旧幕府軍の最後の戦いの舞台にもなりました。1868年、旧幕府海軍副総裁の榎本武揚は海峡を越えて箱館に渡り、五稜郭を占拠。仮の政権を樹立したものの、翌年には新政府軍の総攻撃を受けて、わずか半年で降伏したのです。この箱館戦争を機に、明治政府は北方開拓を強化し、開拓使を設置。「蝦夷地」は「北海道」、「箱館」は「函館」に改められ、新たな一歩を踏み出しました。



北海道新幹線がもたらす新時代

2015(平成27)年度末には、北海道新幹線の新青森-新函館北斗の開業が予定されており、首都圏と約4時間で結ばれることになるなど、他地域との移動時間の大幅な短縮により、経済や文化などさまざまな分野での交流がより一層活発化し、地域経済への大きな波及効果が期待されます。また、陸・海・空のアクセスの充実により、北海道の玄関口としての役割が一層高まるとともに、国内外からの交流人口の増加が見込まれます。



JR北海道 H5系
提供：「北海道旅客鉄道株式会社」

北海道新幹線開業について

2015年度末北海道新幹線が開業(予定)します。開業後は、函館から東京まで約4時間となり、現行より約1時間30分短縮されます。他地域との移動時間が大幅に短縮されることにより、経済や文化など、多方面での交流が活発化されることが予想され、地域活性化への効果も期待されます。

「新函館北斗」開業後の各地への所要時間



※所要時間は「第9回整備新幹線小委員会(H.24.3.21開催)」資料による。実際の停車駅や所要時間は営業主体であるJRが決定します。



JR北海道 H5系
提供：「北海道旅客鉄道株式会社」

各市町への交通網



周辺市町の紹介

北斗市

北斗市は、肥沃な大地と温暖な気候に恵まれ、漁業、農業、商工業を中心に発展してきた上磯町と大野町が、平成18年2月1日に合併し、北海道35番目の市として誕生しました。平成27年度に予定される北海道新幹線完成時には新函館北斗駅が設置され、新たな交通の要衝として道南地域発展の一翼を担っています。

見どころ

小滝の沃トラピスト修道院・北斗市郷土資料館・八郎沼公園・水田発祥の地碑・匠の森公園・さじびき高原・松前藩戸切地陣屋跡・ルルドの洞窟洞

七飯町


新日本三景の一つ「大沼国定公園」を擁し、秀峰駒ヶ岳等の大自然はヨーロッパリゾート地としてその名を馳せています。近代農業の発祥たる伝統を受け継ぐ農業先進地域であり、リンゴの生産地として広く知られているほか酪農や畜産も盛んであり、優れた自然環境と清涼な水と空気に恵まれた町として発展しています。


見どころ

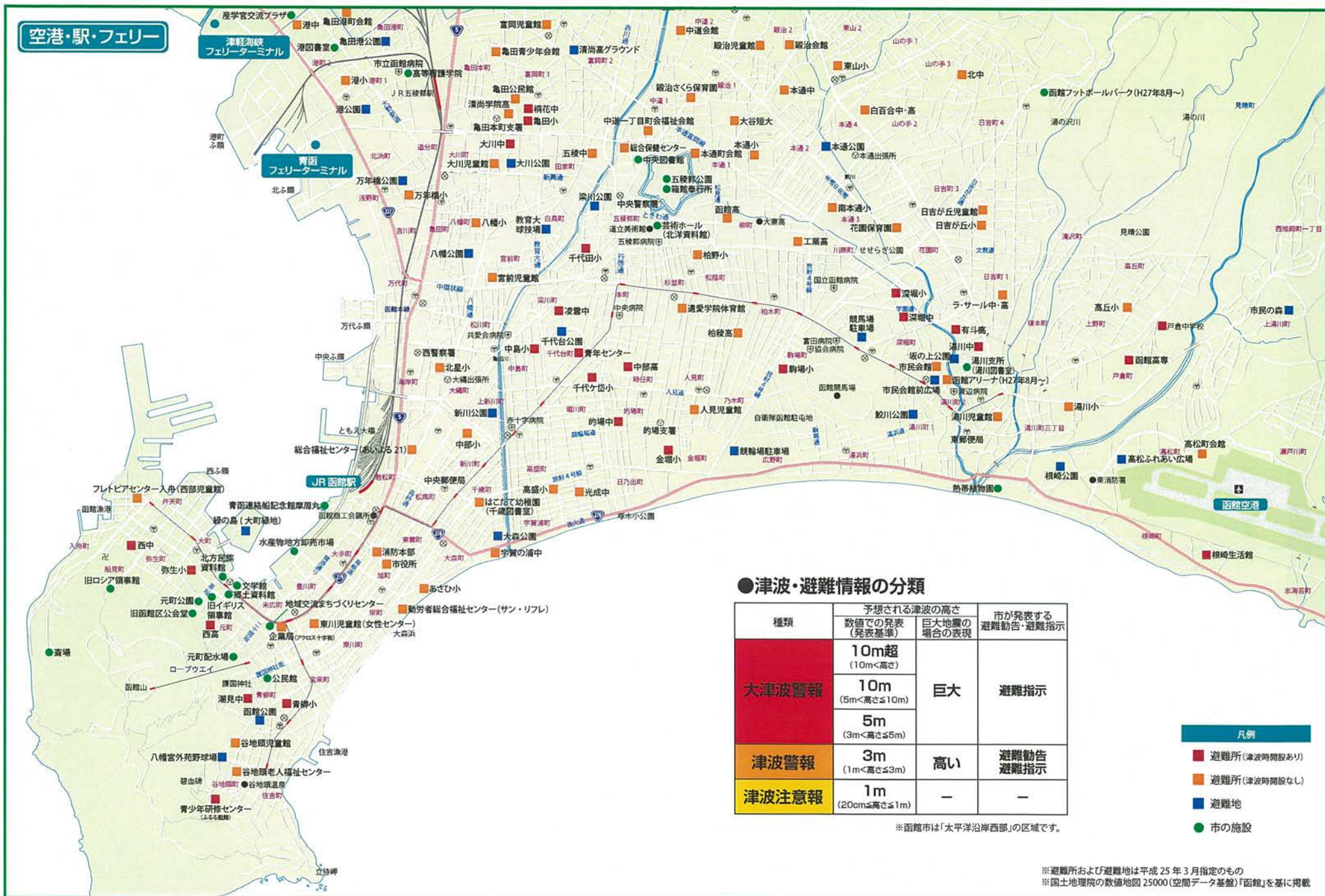
七飯町歴史館・男爵貴発祥の地の石碑・城牧牧場・赤松街道・大沼国定公園・千の風モニュメント



イベント・旬カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月
<ul style="list-style-type: none"> はこだでイルミネーション(12月1日~2月末日) 五稜星(ほし)の夢(12月1日~2月末日) 	<ul style="list-style-type: none"> 恵山ごっこまつり(2月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> スルメイカはすなわち真イカのごとで函館ではこちらが有名。ヤリイカはスルメイカに比べ、体形が細く、ミミが胴体半分近くまでであることで見分けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 函館西部地区バル街(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> 箱館五稜郭祭(5月第3土曜・日曜) 恵山つつじまつり(5月中旬~6月上旬) 南かやべひろめ舟祭り(6月上旬) はこだでハーフマラソン(6月下旬) 	<ul style="list-style-type: none"> つつじ(5月中旬~6月中旬) スルメイカ(6月~1月) あじさい(6月下旬~9月中旬) ふじ(5月中旬~6月下旬) バラ(6月中旬~7月中旬) トマト(6月~10月)
<ul style="list-style-type: none"> スルメイカ(6月~1月) ヤリイカ(1月中旬~2月) マグロ(7月~1月) ごっこ(12月~3月) タコ(12月~3月) アンコウ(1月~3月) ヒラメ(1月~7月上旬) ウニ(1月~7月中旬) ホッケ(1月~5月) アワビ(10月~5月) ミラ(2月~4月) 			<ul style="list-style-type: none"> 桜(4月下旬~5月中旬) 水芭蕉(4月中旬~下旬) 		

7月	8月	9月	10月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> 市民創作野外劇(7月上旬~8月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> 函館新聞社函館港花火大会(7月中旬) 函館港まつり(8月1~5日) 道新花火大会(8月1日) ワッショイはこだで(8月2・3日) はこだで国際民俗芸術祭(8月上旬) 函館湯の川温泉花火大会(8月第3土曜) 	<ul style="list-style-type: none"> 函館西部地区バル街(9月) はこだでグルメサークス(9月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> はこだでMOMI-Gフェスタ(10月下旬~11月中旬) 		<ul style="list-style-type: none"> はこだでクリスマスファンタジー(12月1日~25日) はこだでイルミネーション(12月1日~2月末日) 五稜星(ほし)の夢(12月1日~2月末日) 函館港イルミネーション映画祭(12月上旬)
<ul style="list-style-type: none"> あじさい(6月下旬~9月中旬) バラ(6月中旬~7月中旬) スルメイカ(6月~1月) マグロ(7月~1月) ヒラメ(1月~7月上旬) ウニ(12月~7月中旬) 昆布(7月中旬~10月) 枝豆(8月~9月) 長ねぎ(7月~10月) じゃがいも(7月~10月) トマト(6月~10月) 		<ul style="list-style-type: none"> 市民の森のアジサイは約1万2千株で、これは道内最大規模。 	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉(10月中旬~11月下旬) 	<ul style="list-style-type: none"> 恵山近海で獲れる、「ごっこ」(和名ホテイウオ)は、おなかに吸盤があり、大きい吸盤の方がオス、小さい吸盤の方がメスです。 	<ul style="list-style-type: none"> ごっこ(12月~3月) ウニ(12月~7月中旬) タコ(12月~3月)
			<ul style="list-style-type: none"> アワビ(10月~5月) 		



空港・駅・フェリー

●津波・避難情報の分類

種類	予想される津波の高さ		市が発表する避難勧告・避難指示
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	避難指示
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	避難勧告 避難指示
津波注意報	1m (20cm<高さ≤1m)	—	—

※函館市は「太平洋沿岸西部」の区域です。

- 凡例
- 避難所(津波時間あり)
 - 避難所(津波時間なし)
 - 避難地
 - 市の施設

※避難所および避難地は平成25年3月指定のもの
 ※国土地理院の数値地図25000(空間データ基盤)「函館」を基に掲載

元町・西部地区周辺



1 函館ハリストス正教会

☎0138-23-7387

函館市元町3-13
拝観時間 / 平日10:00~17:00
土10:00~16:00 日13:00~16:00
12月26日~3月中旬(不定)および
教会行事の際は不可

函館ハリストス正教会の前身は初代ロシア領事ゴシケヴィッチが建てた領事館付属聖堂。現在の聖堂は1916年(大正5)に再建されたもので、外観はレンガ壁に漆喰塗仕上げした白壁と緑色銅板屋根の美しい聖堂。国の重要文化財に指定されています。



2 カトリック元町教会

☎0138-22-6877

函館市元町15-30
拝観時間 / 10:00~16:00
日曜日の午前中、礼拝時、
12月30日~1月5日および
教会行事の際は不可

この教会は二度の大火に遭い、現在の聖堂は1924年(大正13)に再建され、正面右側の鐘楼はこの時増築されています。聖堂の内部の祭壇は、ローマ法王ベネディクト15世から贈られた日本唯一の貴重なものです。



3 函館聖ヨハネ教会

☎0138-23-5584

函館市元町3-23
開館時間 / 4月29日~11月3日 10:00~15:00

北海道の聖公会では最も古い歴史をもつ教会で、現在の建物は1979年(昭和54)に完成しました。白壁には十字架が刻まれ、四方に突き出た茶色の屋根は中世ヨーロッパの教会に見られる建築様式を取り入れ、上空から見ると十字架が見えます。



4 真宗大谷派函館別院

函館市元町16-15

1907年(明治40)の大火後に日本最初の鉄筋コンクリート造りの寺院として、1915年(大正4)に完成しました。初期の鉄筋コンクリート造建築として歴史的価値が高く、本堂・鐘楼・正門は国の重要文化財に指定されています。



5 函館中華会館

函館市大町1-12
見学時間 / 外観見学自由

1910年(明治43)に建築されたレンガ造の集会所。釘を使用しない清朝時代より伝わる工法で建てられている。内部は調度品から柱にいたるまで、金箔と朱色で絢爛豪華。(内部見学は不可)



6 旧イギリス領事館

☎0138-27-8159

函館市元町33-14
開館時間 / 4月1日~10月31日 9:00~19:00
11月1日~3月31日 9:00~17:00
休館日 / 無休
入館料 / 大人300円、学生・生徒・児童150円

この建物は、1907年(明治40)の大火後の1913年(大正2)に再建され、1934年(昭和9)まで領事館として使用されていました。レンガ造2階建。外装は塗壁仕上げが施され、全体に装飾は少なく、シンプルな意匠の建物となっています。函館市の有形文化財に指定されています。



7 ペリー提督来航記念碑

函館市弥生町2
見学時間 / 見学自由

1854年(安政元)箱館に来航したペリー提督を末永く顕彰するため、函館山の麓に建立されています。ペリーは滞在中、箱館湾の測量や銀板写真術の初公開、西洋音楽の吹奏などを行いました。



8 元町公園

☎0138-27-3333 (元町観光案内所)

函館市元町12-18
入園時間 / 終日

明治から昭和25年まで、箱館奉行所や開拓使がおかれ、道南の行政の中心だった場所です。港を見おろす高台にあり、公園奥には復元した旧北海道庁函館支庁庁舎を利用した写真歴史館のほか古いレンガ造りの函館支庁図書館が建っています。



9 旧北海道庁函館支庁庁舎(写真歴史館)

☎0138-27-3333 (元町観光案内所)

函館市元町12-18(元町公園内)
開館時間 / 4月~10月 9:00~19:00 11月~3月 9:00~17:00
休館日 / 無休
入館料 / 一般200円、学生・生徒・児童100円

この建物は、1907年(明治40)の大火後の1909年(明治42)に再建され、北海道関係の施設として1957年(昭和32)まで使用されていました。玄関ポーチに特徴があり、明治の木造建築の中でもひととき美しく、北海道の有形文化財に指定されています。



10 旧函館区公会堂

☎0138-22-1001

函館市元町11-13
開館時間 / 4月~10月 9:00~19:00 11月~3月 9:00~17:00
休館日 / 12月31日~1月3日
館内整理の為臨時休館することがあります。
入館料 / 一般300円、学生・生徒・児童150円

この建物は、1907年(明治40)の大火で焼失した町会所に代わる施設として、初代相馬哲平の多額の寄付により、1910年(明治43)に完成しました。建物は正面にバルコニーがある木造2階建の擬洋風建築物で、国の重要文化財に指定されています。



11 金森赤レンガ倉庫

☎0138-27-5530

函館市末広町14-12
営業時間 / 9:30~19:00
(店舗・季節により営業時間が異なります)

この倉庫群は、初代渡邊熊四郎が1887年(明治20)に開業したのが始まりです。現在の倉庫群は、1907年(明治40)の大火後の、1909年(明治42)に再建されたもので、建物の一部はレストラン、土産店等に活用され、ウォーターフロントの観光スポットになっています。